

かほく市教育委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要



1. 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. かほく市における 前年度までの課題と改善の方向性

- ◆ 昨年度の学力調査において、平均正答率は全国や県を上回っていたものの、学習内容の定着がまだ十分ではない児童生徒が見られるため、これからもきめ細かな指導が一層求められる。また、中学校においては無解答率や記述式の設問にも引き続き改善を図る必要がある。
- ◆ 質問紙調査の結果により、読書への関心、ICTの活用がやや低い傾向にある。読書については、学校司書やPTAと連携し、家庭を巻き込んだ読書の質の高まりを目指す。ICTの活用については、昨年度からスタートした小中連携ICT教育推進事業により、指定校を中心とした積極的活用を一層進める。

■ 実施日

令和4年4月19日

■ 対象学年

小学校第6学年
中学校第3学年

■ 調査内容

【教科】

国語
算数・数学
理科

【質問紙】

児童生徒質問紙
学校質問紙

■ 留意点

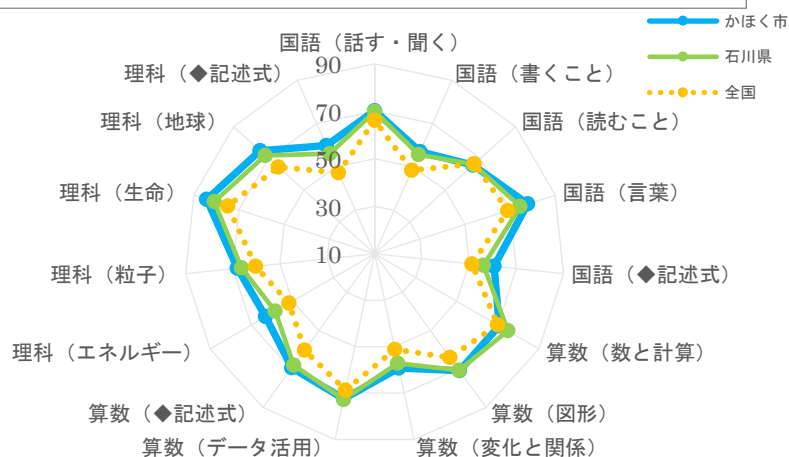
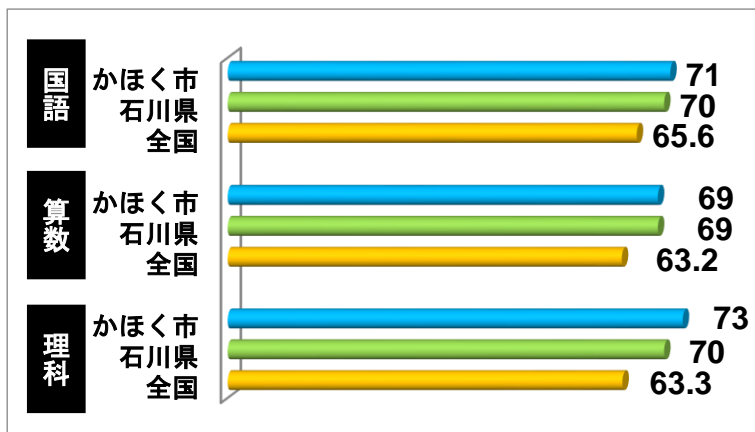
本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、また学校における教育活動の一側面であることから、教育上の効果や影響等に十分配慮して扱うこととする。

3. 教科に関する調査の結果

小学校6年

【傾向】

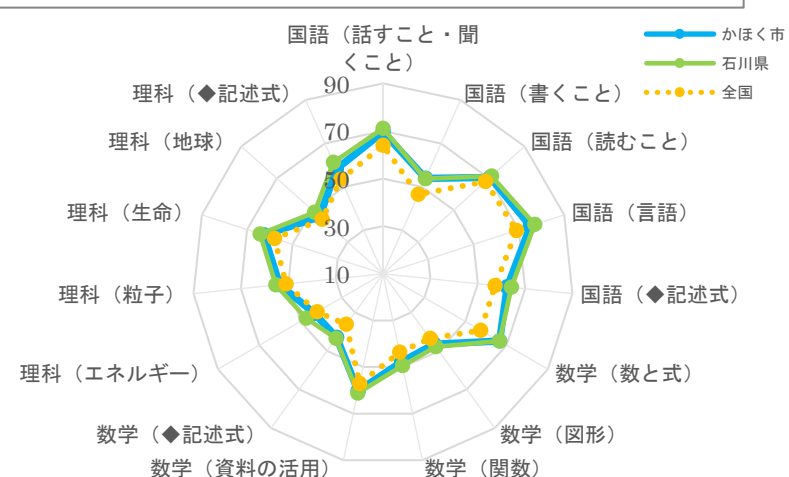
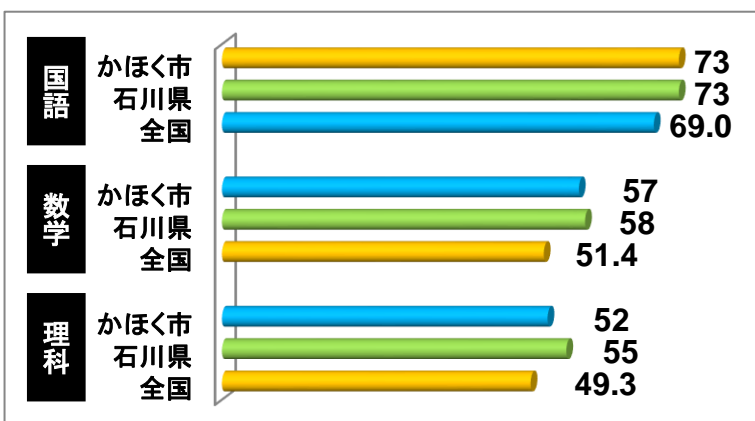
- 全ての教科において全国平均を上回り、国語、算数においては県平均と同程度、理科は県平均をやや上回った。
- 3教科ともに「記述式」の正答率が全ての設問において県平均を上回った。また、「記述式」の無解答率が全国及び県よりも低く、問題解決への意欲が高い。
- △ 国語の「読むこと」の領域で、登場人物の気持ちなどについて、叙述や描写を基に捉えることにやや課題がみられた。



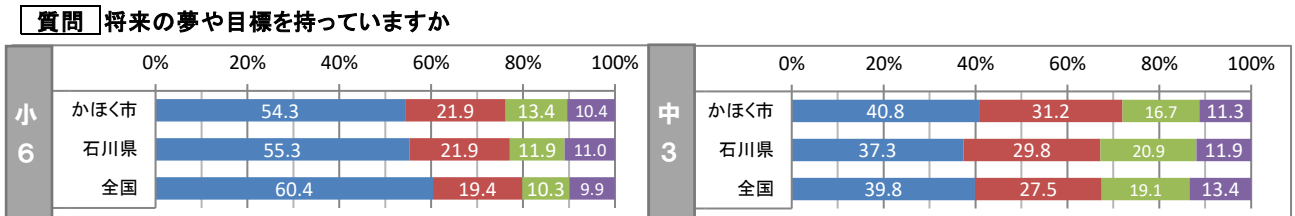
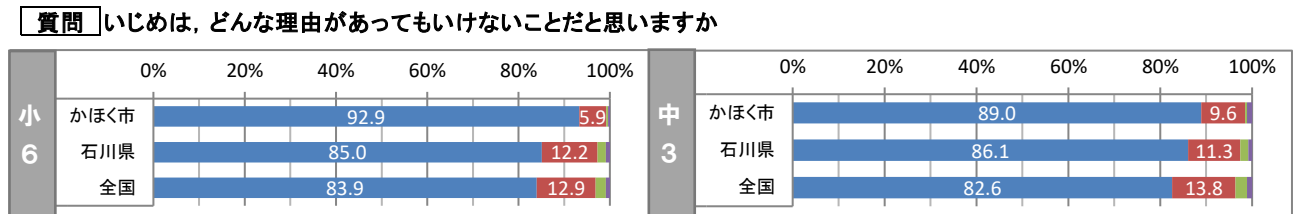
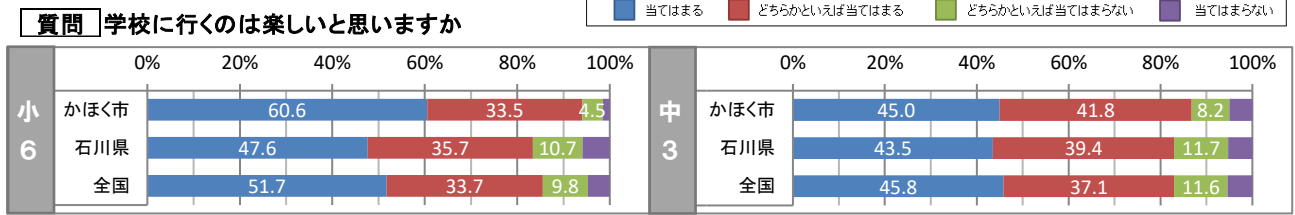
中学校3年

【傾向】

- 全ての教科において全国平均を上回り、国語、数学においては県平均と同程度、理科は県平均をやや下回った。
- 数学では、昨年度課題となっていた、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題において、改善傾向がみられた。
- △ 理科では、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する知識・技能や、データと資料を関連付けて、分析して解釈する思考力・判断力にやや課題がみられた。



4. 児童生徒に対する質問紙調査の結果



【傾向】

かほく市と県全体を比較すると、

- 小学校においては、各教科への関心が高く、意欲的に取り組んでいる児童が多い。
- 学校に行くのは楽しいと思い、課題の解決に向け主体的に取り組んでいる児童生徒が多い。
- 規範意識が高く、自分で決めたことは失敗を恐れずやり遂げようとする児童生徒が多い。
- △ 小学校においては、将来の夢や目標を持っていると答える児童はやや少ない。
- △ 授業時間以外に読書をする児童生徒は小学校では多いが、中学校では多いとはいえない。
- △ 中学校の授業における ICT 機器の活用は県平均を上回っており、小学校では学校による差がみられる。

その他の質問項目から	小学校		中学校	
	肯定的な回答の割合(%)	県平均との差	肯定的な回答の割合(%)	県平均との差
国語の勉強は好きですか	70.2	10.4	59.9	-6.9
算数・数学の勉強は好きですか	73.9	5.4	64.2	-0.8
理科の勉強は好きですか	80.8	7.3	75.2	1.3
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	60.2	-0.6	71.9	4.4
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）	39.4	5.0	26.2	-0.1
普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか → 2時間未満	57.9	5.4	61.0	2.8
自分には、よいところがあると思いますか	81.8	4.5	79.8	1.1
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	93.7	5.3	93.2	4.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	82.1	8.3	76.2	5.3
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	81.0	5.6	69.1	5.4
これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	88.1	7.5	84.0	1.7
小5、中2までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか → 週3回以上	52.5	-8.0	64.2	6.5

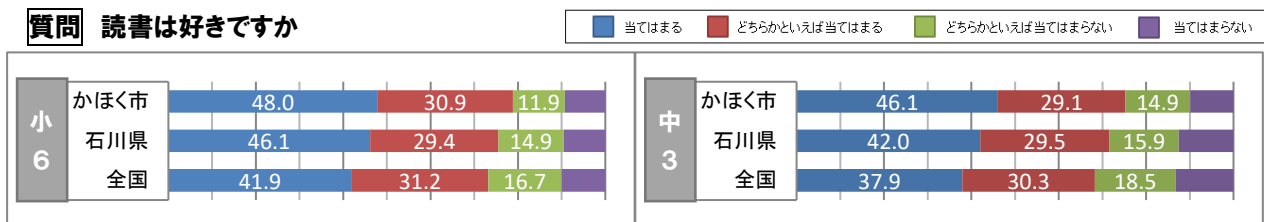
令和4年度 かほく市 学校教育の重点

- 1 授業後半の充実と
深い学びの実現
- 2 学習場面に応じた
1人1台端末の効果的活用
- 3 いじめ・不登校の
未然防止と適切な対応
- 4 視力の低下防止と
体力・運動能力の向上
- 5 教職員の超過勤務の縮減と
若手ミドルリーダーの育成

5. 全体を通して

- ◆ 小6、中3ともに、全国や県に比べすべての設問において無解答率は低く、とりわけ「記述式」の問題における無解答率が低くなっていることから、「書くこと」への意欲の向上がうかがえる。数学は全国平均を5%以上上回っており、中1時、中2時と経年的にみると着実に力をつけてきていることがうかがえる。
- ◆ 質問紙調査の結果からは、多くの項目で肯定的な回答がみられ、特に、小6では規範意識や自己有用感、中3では生活習慣・学習習慣に関する項目で肯定的回答が多い。
- ◆ 質問紙調査の「読書が好きですか」の質問に対し、肯定的な回答をする児童生徒の割合が、全国や県の平均をやや上回った。このことから、学校司書やPTAと連携し、家庭を巻き込んだ取組の成果として現れたことがうかがえる。

質問 読書は好きですか



6. 今年度の課題と改善の方向性

- ◆ 今年度の学力調査において、平均正答率は全国や県平均を概ね上回ったものの、教科書にない場面設定の問題や、資料を読み取る力や探求的な力を見る問題でのつまずきがみられた。今後も、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、各教科で身につけた知識・技能を様々な場面で思考・判断・表現しながら活用していく力を鍛えていく必要がある。そこで、引き続き、「授業後半の充実と深い学びの実現」に向けて、以下の3点を学力向上の重点として取り組むこととする。

- ◇ 他校の同一教科担当者と連携して指導力向上を図る
- ◇ 検証問題を先に作成し、指導方法の工夫改善を図る
- ◇ 教科等のねらいを達成するために、1人1台端末を効果的に活用する

- ◆ 質問紙調査の結果から、ICT機器の活用について、昨年度からスタートした小中連携ICT教育推進事業の指定校を中心とし、効果的な活用の実践研究が進められている。今後は、指定校による公開研究発表会等を通して、ICT機器を活用することの良さをかほく市全体に広く発信し、各学校における、学習場面に応じた1人1台端末活用の充実を図っていく。

